

日本語学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時
日本語構造論特論Ⅰ	文章・談話の構造論	2	甲田 直美	前期 月曜日 3講時
日本語変異論特論Ⅰ	日本語文法研究	2	大木 一夫	前期 木曜日 2講時
日本語変異論特論Ⅱ	方言研究の開拓	2	中西 太郎	後期 水曜日 2講時
日本語学特論Ⅰ	日本語文法史研究	2	宮地 朝子	前期集中 その他 連講
日本語学総合演習Ⅰ	日本語史・方言研究の諸問題 (1)	2	大木 一夫.甲田 直美.中 西 太郎	前期 火曜日 4講時
日本語学総合演習Ⅱ	現代日本語研究の諸問題(1)	2	甲田 直美.中西 太郎.大 木 一夫	後期 火曜日 4講時
日本語学総合演習Ⅲ	日本語史・方言研究の諸問題 (2)	2	甲田 直美.中西 太郎.大 木 一夫	前期 火曜日 5講時
日本語学総合演習Ⅳ	現代日本語研究の諸問題(2)	2	甲田 直美.大木 一夫.中 西 太郎	後期 火曜日 5講時
日本語構造論研究演習Ⅰ	ナラトロジーと語りの実際	2	甲田 直美	後期 月曜日 2講時
日本語変異論研究演習Ⅰ	日本語分析法Ⅰー語の意味分 析	2	大木 一夫	前期 火曜日 2講時
日本語変異論研究演習Ⅱ	日本語分析法Ⅱー言語変化研 究	2	大木 一夫	後期 木曜日 2講時
日本語変異論研究演習Ⅲ	方言調査法	2	中西 太郎	前期 水曜日 2講時

科目名：日本語構造論特論 I / Structure of Japanese (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：甲田 直美

コード：LM11303, 科目ナンバリング：LJS-LIN601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文章・談話の構造論

2. Course Title (授業題目) : Discourse and Conversation Structure

3. 授業の目的と概要：文章・談話の構造は、どのようにして捉えることができるであろうか。研究手法としては、(1) 文法論との接点から、談話・文章における結束性保持の手段を考える研究、(2) 会話分析を中心とする実際に生じた会話の参与構造を扱う研究に大別できる。これらの研究について整理し、解説する。

1. コンピューターを用いて文体を計量する技術、2. 引用と話法に着目したデータの収集、分析について学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course deals with the foundations of discourse and conversation analysis. Do these two approaches simply study the same things, but in different ways? This course compares conversation analysis (CA) with discourse analysis (DA) as methodological approaches to the study of talk.

5. 学習の到達目標：(1) 近年の研究で重要とされる理論を理解する。(2) 授業で扱う研究の意義と限界・問題点について批判能力を身につける。(3) 実際に言語データが分析できるように、コンピューターによる計量文体、および話し言葉における引用と話法に着目して、データを収集し分析の基礎を学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of conversation analysis and discourse analysis, and compare two approaches to the study of talk.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 文章・談話研究とは～テーマ設定から分析まで～

2. 物語作品の享受と分析

3. ジェンダーと日本語

4. 引用と話法

5. コーパス, 言語のバリエーション

6. 文体の指標

7. 文体を計量する

8. 接続詞と言語ジャンル

9. 文学作品と電子化資料

10. コンコーダンサー

11. 特徴語の分析

12. 話し言葉における技巧性

13. 音声データの収集と加工

14. 研究の進め方

15. レポートの書き方

8. 成績評価方法：

レポート [60%]・出席 [10%]・授業中の提出物 [30%]

9. 教科書および参考書：

参考書：甲田直美 (2024) 『物語の言語学—語りに潜むことばの不思議』ひつじ書房

その他の参考文献は授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：会話・対話・談話研究のための分析単位の実際をデータを元に観察する。

音声言語コミュニケーションのための分析単位 IU の実際をデータと対照する。

会話データを作成し、会話分析の手法を体験する。

論文を読んで論点を提出する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

毎回コンピューターを持参すること。

科目名：日本語変異論特論 I / Variation of Japanese (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LM14202, 科目ナンバリング：LJS-LIN603J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語文法研究

2. Course Title (授業題目) : Study of Japanese grammar

3. 授業の目的と概要：現代日本語の文法現象をとりあげ、それについての先行研究をふまえながら、文法的な分析を試みる。また、その内容について、具体的な例文にもとづきながら文法的に考え、議論する。テーマは、名詞収束型文。なお、より具体的な講義内容・日程等の詳細は、開講時に提示する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course focuses on the grammatical phenomena of modern Japanese and conducts grammatical analysis. Through this, you deepen your understanding of Japanese grammar. The theme is noun convergent sentences.

5. 学習の到達目標：(1) 日本語文法研究における先行研究の内容を把握し、その内容を説明できるようになる。

(2) 日本語文法論における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。

(3) 文法論的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

(1) be able to explain the contents of previous research in Japanese grammar research,

(2) be able to find problems in the analysis viewpoint and logical development of Japanese grammar,

(3) be able to think grammatically and report and discuss the results.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：文法研究とは何か

第 3 回：先行研究の分析について

第 4 回：テーマ概説

第 5 回：研究史の分析 (1)

第 6 回：研究史の分析 (2)

第 7 回：研究史の分析 (3)

第 8 回：研究史の分析 (4)

第 9 回：分析実践 (1)

第 10 回：分析実践 (2)

第 11 回：分析実践 (3)

第 12 回：分析実践 (4)

第 13 回：分析実践 (5)

第 14 回：分析実践 (6)

第 15 回：まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・講義内の小課題・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：(1) テキストを読み、その内容の要点を把握して参加する。

(2) 講義内の分析・議論についての疑問点を整理する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本語変異論特論Ⅱ／Variation of Japanese(Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：中西 太郎

コード：LM23201, 科目ナンバリング：LJS-LIN604J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：方言研究の開拓

2. Course Title (授業題目)：Pioneering Dialect Studies

3. 授業の目的と概要： これまでの方言研究では、ことばの運用の地域差の解明に資する資料の蓄積とそれを用いた研究がまだ十分とは言えなかった。また、それらも含めたことばの総合的な地域差の研究成果をもとに、研究成果を社会に還元する取り組みにもさらなる展開の余地があると言える。

近年ではことばの運用の地域差解明に向けた理論と研究視座が発展し、ことばの地域差の研究成果を応用する実践的方言学も展開している。この授業では、そのような研究の目的と方法論を解説し、具体的な言語運用の地域差の記述、分析、応用を通してさまざまな課題について検討し

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： Conventional dialect research has yet to accumulate enough data that would contribute to the clarification of regional differences in the use of language and to conduct research using such data. There is also room for further development in efforts to return research results to society based on the results of comprehensive research on regional differences in language, including regional differences in language use.

In recent years, theories and research perspectives have been developed to elucidate regional differences in language use, and practical dialectology has also been developed to apply the results of research on regional differences in language use. In this class, the purpose and methodology of such research will be explained, and various issues will be discussed through the description, analysis, and application of regional differences in specific language operations.

This time, we will particularly focus on linguistic behavior, interjections, and discourse, which have not been studied before, and consider their structure, variation, and regional differences in operation, and also examine their historical aspects.

5. 学習の到達目標：(1)講義でテーマにする研究領域の知見と研究動向を理解し説明できる

(2)講義でテーマにする研究領域の分析を的確にできる

(3)ことばの研究成果を応用する実践的な取り組みができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Understand and explain the findings and research trends of the research topics covered in this lecture

(2)To be able to analyze accurately the research topics in this lecture

(3)To be able to apply the results of research in dialectology in a practical way

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス

第2回：言語行動・感動詞・談話研究の視点(1)

第3回：言語行動・感動詞・談話研究の視点(2)

第4回：言語行動・感動詞・談話研究の視点(3)

第5回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(1)

第6回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(2)

第7回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(3)

第8回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(1)

第9回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(2)

第10回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(3)

第11回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(1)

第12回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(2)

第13回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(3)

第14回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(4)

第15回：半期の総括

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

8. 成績評価方法：

レポート(50%)、発表内容(30%)、授業への参加状況(課題などへの取り組みを含む)(20%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、補助資料を配布する。参考文献は、授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：(1)言語行動や感動詞、談話について、自分および周囲の人たちの言葉遣いを観察し、授業の内容理解に役立てるようにする。

(2)研究発表のための分析、資料作成などの準備を行う。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

科目名：日本語学特論 I / Japanese Linguistics (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 その他

セメスター：単位数：2

担当教員：宮地 朝子

コード：LM98808, 科目ナンバリング：LJS-LIN605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語文法史研究
2. Course Title (授業題目) : Historical study of Japanese grammar
3. 授業の目的と概要：日本語の文法変化の具体的事例として機能語（助詞）の確立過程を取り上げ、言語の変化と多様性およびそれを支える構造について考える。日本語の、音韻、形態、統語・意味的な側面が相互に関連しながら変化していく様相を観察し、個々の形態の変化を条件付けたり制約として作用したりする語彙の意味や構造的特性と、変化をもたらす言語運用上の諸条件の関係について考察する。言語変化の把握や記述・分析法の一例を提示するとともに、さまざまな立場を批判的に検討し、言語の変化や多様性にかかわる諸現象を分析する手法を身につける。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The main aims of this course are to explore properties of syntax and syntactic change in the history of Japanese. Some aspects of morphology, semantics and pragmatics are also included where relevant. We will survey selected changes and discuss different accounts, that will also introduce various approaches to syntactic change. This course deals with the factual linguistic knowledge and the specialized knowledge on historical development of Japanese functional morphemes. It also help students acquire the skills and proficiency needed for historical study on Japanese grammar.
5. 学習の到達目標：・日本語の文法史的变化について問題を設定し、語彙の意味や構造的特性、言語運用上の諸条件の関係について考察することができる。
 - ・日本語の文法史研究の諸説に対し、要点と問題点を精確につかんで批判的に検討できる。
 - ・文法変化の条件を明らかにする文法史研究を自ら実践することができる。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : By the end of the course, students should be able to:
 - ・Understand the relationship between grammatical changes and language use from the perspective of language history.
 - ・Compare and contrast alternative theories and approaches in terms of their underlying processes.
 - ・Conduct historical research to elucidate the conditions for grammatical change.
7. 授業の内容・方法と進度予定：

文法変化の事例として、名詞ほかさまざまな形態に由来する体言性の機能語（主に副助詞類）の確立と展開を取り上げる。
※授業の進度等の状況に応じて、内容・順序には多少の変更を行う場合がある。

 1. ガイダンス：日本語史概観
 2. 言語変化とは：変化・多様性をとらえる視点
 3. 助詞の文法史 概観
 4. 副助詞と係助詞、並立助詞と接続助詞
 5. 体言・名詞の多様性と文法
 6. 事例 1-ダケの史的展開 (1) 形式名詞から形式副詞へ
 7. 事例 1-ダケの史的展開 (2) 形式副詞から接続助詞・副助詞へ
 8. 事例 1-ダケの史的展開 (3) ダケとバカリ
 9. ディスカッション：文法史の諸問題
 10. 事例 2-シカ類の史的展開 (1) 方言形式の多様性
 11. 事例 2-シカ類の史的展開 (2) 否定極性と文法変化
 12. 事例 3-ナラデハの史的展開 (1) 中古・中世前期
 13. 事例 3-ナラデハの史的展開 (2) 中世後期・近世
 14. 事例 3-ナラデハの史的展開 (3) 近代から現代へ
 15. まとめ：変化と普遍、現象と構造
8. 成績評価方法：

平常点（参加姿勢 20%・小課題 30%）および期末のレポート課題（50%）の総合評価による。
9. 教科書および参考書：

特定の教科書は指定しない。スライド資料等を提示する。
【参考書】主なもののみ。そのほかは授業中に随時提示する。

 - ・宮地朝子『日本語助詞シカに関わる構文構造史的研究』ひつじ書房、2007
 - ・大木一夫編『ガイドブック 日本語史調査法』ひつじ書房、2019
 - ・青木博史・高山善行編『日本語文法史キーワード事典』ひつじ書房、2020
 - ・此島正年『国語助詞の研究 助詞史素描』桜楓社、1966
10. 授業時間外学習：(1) 授業時に提示する小課題に取り組む
(2) 参考文献や配布資料を読んで内容を検討し、問題点や発展的課題として指摘すべき箇所を見出す
(3) 期末レポート課題へ向けて問題を設定し、参考文献の参照、用例の調査を行う
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

メールアドレスは開講時に提示する。

科目名：日本語学総合演習 I / Japanese Linguistics(Integration Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：大木 一夫, 甲田 直美, 中西 太郎

コード：LM12403, 科目ナンバリング：LJS-LIN606J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語史・方言研究の諸問題(1)
2. Course Title (授業題目)：Studies of Japanese language history and Japanese dialect
3. 授業の目的と概要：日本語史・方言研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Participants survey and criticize prior research on Japanese language history and Japanese dialect, and determine their own themes and research methods, while grasping current academic trends where various research themes exist. After that, we will conduct surveys based on the theme and method, conduct analysis and consideration based on the collected data, and announce the results orally. In addition, the contents will be discussed by all participants. Through oral presentations and discussions, students will learn how to research and criticize prior research on their own themes, how to consider them based on sufficient scrutiny of materials, and how to effectively describe new methodologies and research results.
5. 学習の到達目標：(1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。
(2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。
(3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) The current research trend can be grasped and it can be shown explicitly.
(2) To be able to make oral presentations on their own themes based on appropriate evidence and evidence.
(3) Discussions can be made based on the content of the oral presentation.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業計画
第1回：ガイダンス・研究発表の方法
第2回：研究発表(1)
第3回：研究発表(2)
第4回：研究発表(3)
第5回：研究発表(4)
第6回：研究発表(5)
第7回：研究発表(6)
第8回：研究発表(7)
第9回：研究発表(8)
第10回：研究発表(9)
第11回：研究発表(10)
第12回：研究発表(11)
第13回：研究発表(12)
第14回：研究発表(13)
第15回：研究発表(14)
定期試験は実施しない。
8. 成績評価方法：
(1) レポート (研究発表の内容にもとづく論文) 90%
(2) 参加態度 (口頭発表に対する質疑・応答など) 10%
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。
参考書：
佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014
飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007
日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018
10. 授業時間外学習：発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演 II も連続履修すること。

科目名：日本語学総合演習Ⅱ／ Japanese Linguistics(Integration Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：甲田 直美, 中西 太郎, 大木 一夫

コード：LM22405, 科目ナンバリング：LJS-LIN607J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本語研究の諸問題(1)

2. Course Title (授業題目)：Studies of contemporary Japanese language

3. 授業の目的と概要：現代日本語研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：About modern Japanese Studies participants survey and criticize prior research on the themes of each participant, and determine their own themes and research methods, while grasping the current trends in the academic world where various research themes exist. After that, we will conduct surveys based on the theme and method, conduct analysis and consideration based on the collected data, and announce the results orally. In addition, the contents will be discussed by all participants. Through oral presentations and discussions, students will learn how to research and criticize prior research on their own themes, how to consider them based on sufficient scrutiny of materials, and how to effectively describe new methodologies and research results.

5. 学習の到達目標：(1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。

(2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。

(3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) The current research trend can be grasped and it can be shown explicitly.

(2) To be able to make oral presentations on their own themes based on appropriate evidence and evidence.

(3) Discussions can be made based on the content of the oral presentation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：ガイダンス・研究発表の方法

第2回：研究発表(1)

第3回：研究発表(2)

第4回：研究発表(3)

第5回：研究発表(4)

第6回：研究発表(5)

第7回：研究発表(6)

第8回：研究発表(7)

第9回：研究発表(8)

第10回：研究発表(9)

第11回：研究発表(10)

第12回：研究発表(11)

第13回：研究発表(12)

第14回：研究発表(13)

第15回：研究発表(14)

定期試験は実施しない。

8. 成績評価方法：

(1) レポート (研究発表の内容にもとづく論文) 90%

(2) 参加態度 (口頭発表に対する質疑・応答など) 10%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

参考書：

佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014

飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018

10. 授業時間外学習：発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習 I も連続履修すること。

科目名：日本語学総合演習Ⅲ／ Japanese Linguistics(Integration Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 5講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：甲田 直美, 中西 太郎, 大木 一夫

コード：LM12502, 科目ナンバリング：LJS-LIN608J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語史・方言研究の諸問題(2)
2. Course Title (授業題目)：Studies of Japanese language history and Japanese dialect
3. 授業の目的と概要：日本語史・方言研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Participants survey and criticize prior research on Japanese language history and Japanese dialect, and determine their own themes and research methods, while grasping current academic trends where various research themes exist. After that, we will conduct surveys based on the theme and method, conduct analysis and consideration based on the collected data, and announce the results orally. In addition, the contents will be discussed by all participants. Through oral presentations and discussions, students will learn how to research and criticize prior research on their own themes, how to consider them based on sufficient scrutiny of materials, and how to effectively describe new methodologies and research results.
5. 学習の到達目標：(1)これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。
(2)各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。
(3)口頭発表の内容に即した討論ができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) The current research trend can be grasped and it can be shown explicitly.
(2) To be able to make oral presentations on their own themes based on appropriate evidence and evidence.
(3) Discussions can be made based on the content of the oral presentation.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業計画
第1回：ガイダンス・研究発表の方法
第2回：研究発表(1)
第3回：研究発表(2)
第4回：研究発表(3)
第5回：研究発表(4)
第6回：研究発表(5)
第7回：研究発表(6)
第8回：研究発表(7)
第9回：研究発表(8)
第10回：研究発表(9)
第11回：研究発表(10)
第12回：研究発表(11)
第13回：研究発表(12)
第14回：研究発表(13)
第15回：研究発表(14)
定期試験は実施しない。
8. 成績評価方法：
(1)レポート（研究発表の内容にもとづく論文） 90%
(2)参加態度（口頭発表に対する質疑・応答など） 10%
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。
参考書：
佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014
飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007
日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018
10. 授業時間外学習：発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習 IV も連続履修すること。

科目名：日本語学総合演習IV／ Japanese Linguistics(Integration Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：甲田 直美, 大木 一夫, 中西 太郎

コード：LM22502, 科目ナンバリング：LJS-LIN609J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本語研究の諸問題(2)

2. Course Title (授業題目)：Studies of contemporary Japanese language

3. 授業の目的と概要：現代日本語研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：About modern Japanese Studies participants survey and criticize prior research on the themes of each participant, and determine their own themes and research methods, while grasping the current trends in the academic world where various research themes exist. After that, we will conduct surveys based on the theme and method, conduct analysis and consideration based on the collected data, and announce the results orally. In addition, the contents will be discussed by all participants. Through oral presentations and discussions, students will learn how to research and criticize prior research on their own themes, how to consider them based on sufficient scrutiny of materials, and how to effectively describe new methodologies and research results.

5. 学習の到達目標：(1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。

(2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。

(3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) The current research trend can be grasped and it can be shown explicitly.

(2) To be able to make oral presentations on their own themes based on appropriate evidence and evidence.

(3) Discussions can be made based on the content of the oral presentation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：ガイダンス・研究発表の方法

第2回：研究発表(1)

第3回：研究発表(2)

第4回：研究発表(3)

第5回：研究発表(4)

第6回：研究発表(5)

第7回：研究発表(6)

第8回：研究発表(7)

第9回：研究発表(8)

第10回：研究発表(9)

第11回：研究発表(10)

第12回：研究発表(11)

第13回：研究発表(12)

第14回：研究発表(13)

第15回：研究発表(14)

定期試験は実施しない。

8. 成績評価方法：

(1) レポート (研究発表の内容にもとづく論文) 90%

(2) 参加態度 (口頭発表に対する質疑・応答など) 10%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

参考書：

佐藤武義・前田富祺編『日本語大辞典』朝倉書店 2014

飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018

10. 授業時間外学習：発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習 III も連続履修すること。

科目名：日本語構造論研究演習 I / Structure of Japanese (Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：甲田 直美

コード：LM21202, 科目ナンバリング：LJS-LIN610J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ナラトロジーと語りの実際
2. Course Title (授業題目)：Narratology in Practice
3. 授業の目的と概要：物語の分析理論が、実際の語りや物語作品のことばの分析にどのように適用できるかを演習をとおして体験する。物語にはフィクションとしての物語作品の他に、日常会話における語り（ナラティブ）も含む。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Through exercises, students will experience how the theory of narrative analysis can be applied to the analysis of the language of actual narrative works. Narratives include not only fictional narrative works but also narratives in everyday conversation.
5. 学習の到達目標：物語の理論をもとに語りや物語作品を具体的に分析する。
語りのデータを会話分析による記述法から扱う。
語りのデータベースを作成する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) be able to analyse narrative works based on narrative theory.
(2) be able to handle narrative data in spoken language from descriptive methods based on conversation analysis.
(3) be able to create a database of narratives.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 授業の概要
 2. 物語の分析理論 1
 3. 物語の分析理論 2
 4. 語りの分析
 5. ナラティブ分析の現在
 6. 物語作品の分析 1
 7. 物語作品の分析 2
 8. 物語作品の分析 3
 9. 会話データの分析 1
 10. 会話データの分析 2
 11. 語りの分析 1
 12. 語りの分析 2
 13. 研究発表の実際 1
 14. 研究発表の実際 2
 15. 研究の公表へ向けて
8. 成績評価方法：
授業参加および提出物による。
9. 教科書および参考書：
『物語の言語学—語りに潜むことばの不思議』甲田直美(2024)ひつじ書房
10. 授業時間外学習：扱う言語資料（文献および言語データ）を事前に読んでおく。語りのデータベースを作成する。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：日本語変異論研究演習 I / Variation of Japanese (Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LM11202, 科目ナンバリング：LJS-LIN612J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語分析法 I - 語の意味分析

2. Course Title (授業題目) : Methods of analyzing the Japanese language I: analysis of word meanings

3. 授業の目的と概要：言語にとって意味というものは欠かすことのできない側面であるが、それをとらえるのは思いのほかむずかしい。そこで、ここでは語の意味にしぼって、それがどのようなものであるのかを検討する。検討にあたっては、現代日本語の類義語をとりあげ、具体的な例文にもとづき類義語の差異を分析し、また、議論しながら、語の意味について考えていくことにする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, we will examine the meanings of words. We will take up synonyms in modern Japanese, analyze the differences between synonyms based on concrete example sentences, and consider the meaning of words through discussion.

5. 学習の到達目標：(1) 言語における意味、意味分析の方法の概略が説明できるようになる。

(2) 現代日本語の具体的な例文にもとづき、語の意味を分析することができるようになる。

(3) 言語調査をおこない、それにもとづき報告・議論ができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

(1) To be able to give an outline of meaning in language and of methods of semantic analysis.

(2) To be able to analyze the meaning of words based on concrete examples of modern Japanese.

(3) To be able to conduct a linguistic literature survey, and to be able to report and discuss based on the results.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 日本語研究の技法
3. 語の意味とは何か
4. 意味分析の方法①
5. 意味分析の方法②
6. 意味分析の実践①
7. 意味分析の実践②
8. 意味分析の実践③
9. 意味分析の実践④
10. 意味分析の実践⑤
11. 意味分析の実践⑥
12. 意味分析の実践⑦
13. 意味分析の実践⑧
14. 意味分析の実践⑨
15. 意味分析の実践⑩、まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

必要な資料、テキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：意味および意味研究の方法にかかわる文献資料を読んで参加する。意味分析の方法について検討する。

類義語の意味についての調査をおこなう。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

日本語変異論研究演習 II (木曜日 2 講時)「日本語分析法 II - 言語変化研究」へ連続履修するのがのぞましい。

科目名：日本語変異論研究演習Ⅱ／Variation of Japanese(Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LM24202, 科目ナンバリング：LJS-LIN613J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語分析法Ⅱ-言語変化研究
2. Course Title (授業題目)：Methods of analyzing the Japanese language II: study of language change
3. 授業の目的と概要：日本語史研究は、古い時代の日本語がどのような姿であったのかという点は、かなり精細に明らかにしてきている。それに対して、言語はどのように変化するのか、また、言語はなぜ変化するのかという観点からの分析が十分ではない。そこで、日本語の歴史上におこった言語変化をあとづけながら、そこにはどのような変化があったのか、また、なぜ変化したのかという観点からの分析を加える。参加者が調査・考察をおこなって、その成果を発表し、議論する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, we will clarify the linguistic changes that have occurred in the history of the Japanese language, and analyze them from the viewpoint of what kind of changes there were and why they occurred. Participants will conduct their own research and considerations, present their findings, and discuss them.
5. 学習の到達目標：(1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。
(2) 日本語史上の言語変化の問題点を見いだすことができるようになる。
(3) 言語変化をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論ができるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students
(1) be able to read literature related to the study of Japanese language history.
(2) be able to find the problem of language change in Japanese language history.
(3) be able to conduct research to clarify language changes, and report and discuss based on them.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス
 2. 言語変化研究の現状(1)
 3. 言語変化研究の現状(2)
 4. 言語変化研究の現状(3)
 5. 言語変化研究の問題意識(1)
 6. 言語変化研究の問題意識(2)
 7. 言語変化についての研究発表(1)
 8. 言語変化についての研究発表(2)
 9. 言語変化についての研究発表(3)
 10. 言語変化についての研究発表(4)
 11. 言語変化についての研究発表(5)
 12. 言語変化についての研究発表(6)
 13. 言語変化についての研究発表(7)
 14. 言語変化についての研究発表(8)
 15. 言語変化についての研究発表(9)、まとめ
8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。
9. 教科書および参考書：

テキスト：大木一夫編『ガイドブック日本語史調査法』ひつじ書房2019。
その他、必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。
10. 授業時間外学習：日本語史研究・言語変化研究にかかわる文献資料を読んで参加する。
言語変化の過程、要因の研究手法について検討する。
日本語史上の言語変化についての調査をおこなう。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

日本語変異論研究演習Ⅰ「日本語分析法Ⅰ-語の意味分析」から連続履修するのがのぞましい。

科目名：日本語変異論研究演習Ⅲ／ Variation of Japanese(Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：中西 太郎

コード：LM13202, 科目ナンバリング：LJS-LIN614J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：方言調査法

2. Course Title (授業題目)：Method of the dialect investigation

3. 授業の目的と概要： 方言のしくみや地理的広がりを把握するための調査方法について具体的に検討する。記述的研究のほか、方言地理学や社会方言学、あるいは地方語文献による方言研究を取り上げる。また、方言会話の記録を一つのテーマとすることもある。学期の後半、ないし、夏休みに実際に方言調査を行うので、受講者は準備段階からそれに参加する必要がある。

なお、コロナウィルス感染症の影響で現地調査が困難な場合は、オンライン調査に切り替えて実施する予定である。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)： Investigation method to grasp structure of a dialect and a geographical expanse is considered specifically. Dialectology by a dialect geography in addition to a descriptive study and social dialectology or a vernacular document is taken up. The record of dialect conversation is made one theme. A dialect investigation is performed actually in the second half in a semester or the summer holidays, so a participant has to participate in that from the stage of preparations. If it is difficult to conduct a field survey due to the effects of coronavirus infection, we plan to switch to an online survey.

5. 学習の到達目標：(1)方言調査の調査内容・方法を立案・検討できる

(2)方言調査の実施計画を立てて方言調査を実践できる

(3)方言調査の結果を報告し、議論を踏まえて次の研究課題を見つけることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To be able to plan and examine the contents and methods of a dialect survey

(2) To be able to plan the implementation of a dialect survey and practice dialect research

(3) To be able to report the results of a dialect survey and find the next research topic based on the discussion

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明

2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業

3. 方言的特徴の調べ方についての解説 (1)

4. 方言的特徴の調べ方についての解説 (2)

5. 方言的特徴の調べ方についての解説 (3)

6. テーマ等設定に向けての作業 (1)

7. テーマ等設定に向けての作業 (2)

8. テーマ中間報告 (1)

9. テーマ中間報告 (2)

10. 調査票の作り方についての解説

11. 模擬調査と録音機の使い方

12. 調査票の検討(1)

13. 調査票の検討(2)

14. テーマ最終報告 (1)、調査実施準備

15. テーマ最終報告 (2)、授業のまとめ

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

8. 成績評価方法：

レポート(50%)・授業への参加状況(課題などへの取り組みを含む)(30%)・発表内容(20%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は適宜授業で指示する。

10. 授業時間外学習：(1)テーマの設定、中間報告、最終報告のための準備を行う。

(2)現地調査に参加し、結果の分析を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：